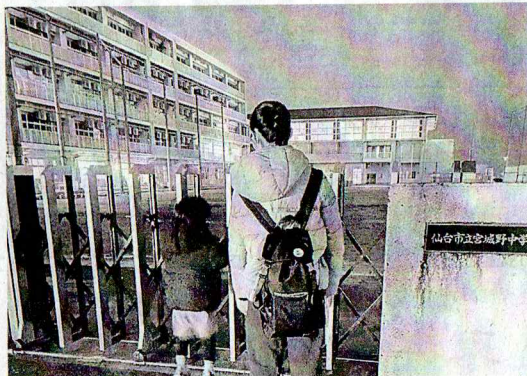


仙台市宮城野中2年 二本柳花音さん

避難先 複数考えて



初めて家族と一緒に避難訓練を行い、災害時の行動を確認した

と宮城野中と榴岡公園しか思いつかなかつた。だが、調べてみると、大志高や宮城野原総合運動公園も避難場所だった。その中から家から短時間で移動できる避難先として、第2候補に大志高、第3候補に榴岡公園を選んだ。

避難先を一つしか考えていなかったが、避難訓練はもしもの場合を考えて、別の避難場所を家族と決める機会になった。

今回の避難訓練に取り組んでみて、自分と家族の避難の行動の流れを具体的に体験することができて良かったと思う。

学校で行われる避難訓練はこれまで何度も参加したことがあるが、家族と一緒に歩いたのは初めての経験だった。家族と避難訓練をしておくことは、もしもの時に少しでも落ち着いて、安全を確保し、行動することにつながると感じた。

家族と一緒に昨年12月11日、避難訓練を行った。また、危険な箇所としては、自動販売機が並んでいる場所や、地面のコンクリートが割れている所を見つけた。役立ちそうな物として、災害時優先電話となる公衆電話があることを確認した。家族で一時的に避難できそうな公園も近くにあって、家から避難先まではとても近いので、5分で到着することができた。私にとっては通学路なので、いつも歩き慣れているため、落ち着いて避難訓練をすることができた。

初めて家族と一緒に避難訓練を行い、災害時の行動を確認した

初めて家族と一緒に避難訓練を行い、災害時の行動を確認した

中学生対象の「かほく防災記者」（河北新報社主催）の研修に参加する宮城県内の9人は昨年10、12月、家族と一緒に「私が主役の避難訓練」に挑戦した。震度6強の地震が起きたと想定。身の安全を確保した後、避難所に移動した。避難先で封筒を開封し、「避難所が使えない場合の2次避難先を考える」という課題にも取り組んだ。

研修生が書いたルポを5週にわたり紹介する。研修生は紙面作りのワークショップに参加し、記事の見出しも自分たちで考えた。